



日米エル・システマ共同企画

ドゥダメルと子どもたち

特別リハーサル&コンサート

Joint open rehearsal & concert by El Sistema inspired programs in USA and Japan
Maestro Gustavo Dudamel's special session of Youth Orchestra Los Angeles and Soma Children's Orchestra & Chorus



グスターボ・ドゥダメル(指揮)
Gustavo Dudamel, Conductor



ロサンゼルス・ユース・オーケストラ(YOLA)
Youth Orchestra Los Angeles (YOLA)



相馬子どもオーケストラ&コーラス
Soma Children's Orchestra & Chorus

3/29(日)11:00 (開場10:30) サントリーホール

Sunday March 29, 2015 11.a.m. at Suntory Hall

主催: ロサンゼルス・フィルハーモニック、一般社団法人エル・システマ ジャパン | 共催: 相馬市 | 後援: アメリカ大使館、ベネズエラ大使館
特別協力: AMATI、サントリーホール | 特別協賛: アークヒルズクラブ、サントリーホールディングス株式会社、楽天株式会社



..... Program
プログラム

相馬子どもコーラスによる歓迎演奏
Soma Children's Chorus

指揮: 古橋富士雄 エル・システマジャパン音楽監督(コーラス)
Fujio Furuhashi, El Sistema Japan Music Director (Chorus) & Conductor

(作詞作曲者不明/編曲:若松正司) 「さくらさくら」(Cherry blossoms)

.....

ロサンゼルス・ユース・オーケストラ(YOLA) と 相馬子どもオーケストラによる演奏
Youth Orchestra Los Angeles (YOLA) Soma Children's Orchestra

指揮: グスターボ・ドゥダメル
Gustavo Dudamel, conductor

(ドヴォルザーク) 交響曲第8番 ト長調 作品88 より 第4楽章 Allegro ma non troppo
Dvorak: Symphony No.8 in G Major, 4th Movement

アントニン・レオポルト・ドヴォルザーク (Antonín Leopold Dvořák, 1841年9月8日 - 1904年5月1日) はチェコの作曲家。チェコ国民楽派、後期ロマン派を代表する作曲家である。交響曲第8番はドヴォルザークの交響曲作品の中でも、ボヘミアの民族色に彩られている作品として人気が高い。第4楽章は主題と18の変奏からなり、その主題はスコチナー舞曲というボヘミアの民族舞踊を想起させるものである。また、ドヴォルザークはブラームスと親しく交際していたため、この第4楽章の構成もブラームスの交響曲第4番の影響を受けている、と言われている。

.....

指揮: グスターボ・ドゥダメル Gustavo Dudamel



グスターボ・ドゥダメルの演奏活動は世界中にわたり、世代を超えてすべての聴衆を魅了し続けている。現在ロサンゼルス・フィルハーモニックと、ベネズエラ・シモン・ボリバル交響楽団の音楽監督として年間活動の大半をこの二つのポストに捧げている。2014年10月公開の映画「ザ・リベレーター／リベルタドル」(シモン・ボリバルの人生)では作曲家としてデビュー。サウンドトラックは、ベネズエラ・シモン・ボリバル響と録音され、演奏会用組曲は、ロサンゼルス・フィルとハリウッド・ボウルで初演された。6シーズン目を迎えるロス・フィルとの音楽監督契約は2018-19年シーズンのオーケストラ創立100周年記念まで延長されている。ドゥダメルは、発足40周年を迎えるベネズエラの「エル・システマ」プロジェクトの音楽監督として16シーズン目の今年も、ベネズエラ・シモン・ボリバル響の指揮をとり、国際的なツアー活動や、カラカスおよびベネズエラ全国の「エル・システマ」の子どもたちとの交流を続けている。2005年よりドイツ・グラモフォン専属アーティスト。2009年タイム誌「世界で最も影響力のある100人」に選出。2011年グラミー賞、同年グラモフォン誌、2013年ミュージカル・アメリカ誌「年間最優秀音楽家賞」等、受賞歴多数。1981年ベネズエラのバルキシメ生まれ。「万人に音楽を」は、職業、慈善活動の両方において、彼の哲学の礎となっている。



Greeting ごあいさつ

私のために相馬から東京までやって来て演奏してくれた子どもたち。私は、君たちに、なによりも沢山の感謝と愛を伝えたい。君たちの奏でるモーツァルトを聴けたことは、私にとって心を揺さぶられる体験でした。君たち、相馬にいる君たちのオーケストラ仲間、そして何よりも君たちの家族に、私から果てることのないサポートを与えます。そう、音楽によって、私と君たちはひとつになっていますから。

ロサンゼルスフィルハーモニック 音楽監督 グスターボ・ドゥダメル
(2014年9月23日エル・システマジャパンチャリティーガラレセプションにて)

音楽を作り上げることによって二つの異なる国の子どもたちを繋げる特別なイベント。今日午後にはロサンゼルスフィルハーモニック(LAフィル)の演奏会がある、ここサントリーホールで、これから開催されます。マエストロドゥダメルが、LAフィルというプロのオーケストラ、そして、将来のリーダーである若き音楽家たちのオーケストラの2つを指揮することは決して偶然ではありません。マエストロ自身、エル・システマを通して、今あるような一人の音楽家、一人の人間、そして、一人の市民に育ったのです。

エル・システマは、世界に何が可能なのかを気づかせてくれました。困難な状況に置かれた若い世代が、美しいハーモニーを作る機会を与えられることによって、自分自身がかけがえのない存在であることに気づき、自らコミュニティーを作っていくということ。LAフィルは2007年にロサンゼルス・ユース・オーケストラ(YOLA)を創設しました。現在では、6-18歳、700人以上の子どもたちが毎週15時間ものオーケストラ教育を受けています。LAフィルが公演旅行に行く時には、YOLAの音楽家も同行します。音楽で社会を変革するための特命大使として世界中に。そして、今日、私たちは、丁寧に築き上げてきた2つの大陸にまたがった社会と音楽の共同作業の成果を、見ることになるでしょう。

ここに私たちを迎えて下さった、エル・システマジャパンの若き音楽家たち、その指導者と支援者、そして、子どもたちを支える相馬市民の皆様にご心より感謝を申し上げます。

ロサンゼルスフィルハーモニック 理事長/CEO デボラ・ボルダ

東日本大震災の影響を大きく受けた子ども達のため、「エル・システマ」の音楽活動にできることは何かを考えていたときに心から離れなかったことは、9年近く住んだアフリカの国々で感じた、困難な日常と共にある音楽の力でした。南アフリカでは、人々や子どもたちの歌声を通した抗議活動の前に、アパートメントも崩壊したのです。

震災後、私は、音楽を愛し、子ども達の将来に強い責任感を持つ福島・相馬の人々に出会いました。特に原発事故によって深く傷ついている状況で、一過性ではない何か本物の美との出会いが大事だと考える人々も、相馬にはいました。

また国内外には、様々な形で支援の手を差し伸べてくれる方々があります。ロサンゼルスフィルハーモニックとは、2012年、相馬での初めて実施した夏期学習会講師がYOLAの指導者だったご縁がありました。また、彼らは、世界中のエル・システマ関係者が集うシンポジウムを2014年に主催し、私たちに報告発表の機会も下さいました。そして昨年9月、短い時間でしたが、来日したマエストロドゥダメルと相馬子どもオーケストラメンバーとの出会いもありました。その間も、多くの関係者の善意がむすばれ、今日の、夢のような特別公開リハーサル&コンサートの実現につながったのです。

それぞれの困難さに向き合う日米の子どもたちが、ベネズエラの若き巨匠の指揮で、19世紀のチェコの大作曲家の作品をともに奏でる。時空を超えてつながっていく音楽の強さ、豊かさを、今日は多くの方と分かち合えれば幸いです。

一般社団法人エル・システマジャパン 代表理事 菊川 穰